

平成29年度シラバス

学番40 新潟県立栃尾高等学校

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2
科目の性質	必履修		学年(学級)	2 学年	
使用教科書	明解 世界史 A (帝国書院)		副教材等		

1 学習目標

近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①世界の歴史における基本的な事象・人物等についての知識の定着を図る。
- ②近・現代史を中心とする世界の歴史の流れを把握し、現代社会への関連についての考察を行い、特に2つの大戦が現代の社会に与えた影響についての理解を深める。
- ③各種史料や視聴覚教材を用いて、歴史的な事象や人物像の具体的なイメージを認識することを目指す。

3 学習計画

月	学習活動（指導内容）	学習のねらい	時間	評価方法
4	1 部 世界の一体化と日本 序節 人類の始まり 1 節 東アジアの文明	・ 人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産を基礎にして人類が文明を築いていく過程を理解する。 ・ 東アジアの風土と諸民族、国際関係などを通して、東アジア世界の特質を理解する。	5	授業の取組 定期考査 提出物

5	2節 南アジアの文明 3節 東南アジア 4節 西アジア・北アフリカの文明	・南アジアの風土と諸民族，カースト制，諸宗教の影響などを通して，南アジア世界の特質を理解する。 ・南アジア文明と中華文明のはざまで強く影響を受けた東南アジア世界の特質を理解する。 ・西アジアの風土と諸民族，西アジア世界の特徴を把握し，イスラーム世界の特質を理解する。	8	授業の取組 定期考査 提出物
6	5節 ヨーロッパの文明 6節 南北アメリカの文明	・ヨーロッパの風土と諸民族，ギリシア・ローマ文明，キリスト教，封建社会などを通して，ヨーロッパ世界の特質を理解する。 ・南北アメリカの風土と先住民に触れ，新大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	8	授業の取組 定期考査 提出物
7	7節 ユーラシアの交流圏 2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	・8世紀以降の諸地域世界の交流の深まりに触れ，ユーラシア規模の交流圏の成立について理解する。 ・諸帝国の政治と社会に触れ，文化の黄金時代を迎えたことを理解する。	7	授業の取組 定期考査 提出物
9	2節 大航海時代と新たな国家の形成	・ルネサンスと宗教改革，新航路の開拓，主権国家体制の成立などに触れ，世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制について理解する。	8	授業の取組 定期考査 提出物
10	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	・産業革命，フランス革命，アメリカ諸国の独立などを通して，西ヨーロッパとアメリカに市民社会及び国民国家の形成が進行したことを理解する。	8	授業の取組 定期考査 提出物
11	2節 自由主義・ナショナリズムの進展	・19世紀後半のヨーロッパ，アメリカ社会を通して，自由主義と国民主義が進展していく様子について理解する。	8	授業の取組 定期考査 提出物

	3 節 アジア諸国の動揺	・世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とそれに対するアジア諸国の動揺の様子を理解する。		
12	4 節 東アジアの大変動 2 部 地球社会と日本 1 章 現代社会の芽生えと世界大戦 1 節 現在につながる社会の形成	・西洋の衝撃により、伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、東アジアの大変動の様子を理解する。 ・20 世紀という時代の特徴を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	7	授業の取組 定期考査 提出物
1	2 節 第一次世界大戦がもたらしたもの 3 節 “民族自決”を求めて 4 章 経済危機から第二次世界大戦へ	・戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカの大衆生活とその波及を通して、20 世紀初頭の変化の様相を理解する。 ・“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。 ・第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察する。	8	授業の取組 定期考査 提出物
2 3	2 章 冷戦から地球社会へ 1 節 冷たい戦争の時代 2 節 冷戦終結への道のり 3 節 地球社会への歩み 4 節 持続可能な社会をめざして	・戦後の新しい国際秩序の形成について理解する。 ・冷戦終結後の世界の動きについて理解する。 ・これからの世界をつくる私たちの課題を考察する。	3	授業の取組 定期考査 提出物

4 課題・提出物等

- ・視聴覚教材を用いた授業時の感想文提出や小テストの実施
- ・作業プリントの提出（授業内で随時実施する）
- ・夏季休業中・冬季休業中の課題については別途指示

5 評価規準と評価方法

評価は以下の観点から行います。

① 関心・意欲・態度

世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求する姿勢を身につける努力をしている。

② 思考・判断・表現

世界の歴史から課題を見だし、世界的視野に立って多面的・多角的に考察できる。

③ 資料活用の技能

世界の歴史についての資料を収集し、自らの力で調べ、結果を適切に表現することができる。

④ 知識・理解

世界の歴史についての基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。

以上の観点をふまえ、

定期考査（第一回～第五回）

授業の取り組み（出席状況、授業態度、学習活動への参加状況）

諸課題の提出状況などから総合的に評価します。

6 担当者からの一言

世界史に限らず、歴史は「暗記」というイメージがあると思いますが、そのところを超えたおもしろさに気づいてもらえたらと思います。視聴覚教材を用いるなどして具体的な理解が深まるよう授業を進めていきます。また、「世界」という観点で歴史を見ることによって、そのなかに置かれた「日本」ということにも気づいてもらうことを授業のテーマの1つとしています。